旧五十嵐邸物語

特定非営利活動法人
旧五十嵐邸を考える会

東海道蒲原宿

●東海道の江戸から数えて１５番目の宿場まち
●歌川広重描く東海道53次「蒲原夜之雪」が超有名→切手になった。
●国登録有形文化財５棟をはじめ、江戸から昭和初期にかけての文化財建造物が良く残り、歴史的な町並みを形成している。

蒲原宿をめぐるまちづくり

●静岡県の東海道を活かしたまちづくり事業がきっかけ

→静岡県には53宿のうち22宿がある。

●平成3年の県建築士会による歴史的建造物調査による「旧五十嵐歯科医院」の価値の発見→評価が高まる。

①母屋などが当時の生活空間を残している。

②洋風建築としては珍しい開放的な空間

●平成6年　蒲原町の「東海道歴史のかおるまちづくり」スタート

基本構想・基本計画を策定し、

町並み・町家調査の必要性・歴史的建造物の活用を謳う。

●平成8年 「旧五十嵐歯科医院保全活用構想策定調査」→市民による活用を位置づける。

旧五十嵐歯科医院

①大正３年に江戸時代の町家を洋風に改築して歯科医院を開業
②大正７年ころ　西側部分を増築
③昭和１３年～１４年　東側部分を増築
↓
３回にわたる増改築を経て現在に至る。

平成１２年　　在来の町家の間取りを残しながら外観を洋風建築に改造したユニークな履歴が評価され国登録有形文化財に！

五十嵐歯科医院の活用　⇒　旧五十嵐邸を考える会の誕生

●平成８年度から３年間　「まちづくり講座」開催
●最後の平成１０年度　旧五十嵐歯科医院の活用をテーマに検討
↓
コーディネターの存在
●平成１１年４月　**「旧五十嵐邸を考える会」発足**　**会員は１５人**

会の目的

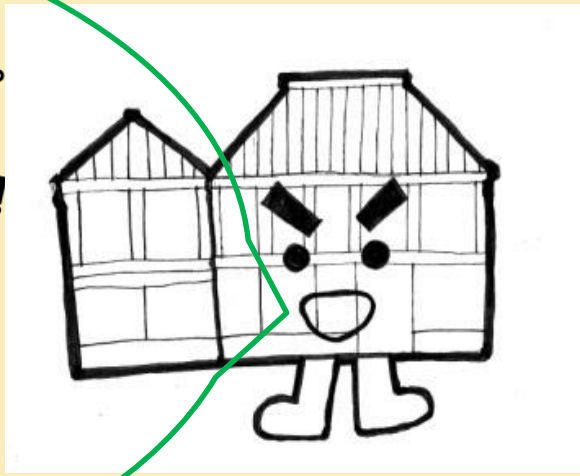
「旧五十嵐歯科医院」の保全と活用を住民参加で考え、行政との協働によるまちづくりの拠点施設として整備し、施設の活用を通して住民参加によるまちづくりを実現する。

このとき、建物はまだ個人の所有で、空家の状態。
畳も障子もボロボロ、床にはホコリが積もっていた・・
まちの人たちも、あんな古い家どうするの？

旧五十嵐歯科医院の活用始まる

★五十嵐歯科医院をみんなに
もっとよく知ってもらいたい。
↓
五十嵐邸まるごと調べ隊結成！！

★五十嵐歯科医院をみんなに
見てもらいたい。
↓
五十嵐邸ではたらき隊結成！！



会員みんなが五十嵐邸と訪れる人をつなぐ
インタープリターになろう！

会員がんばる

五十嵐邸まるごと調べ隊　寄贈品の絵葉書・食器・古銭・書籍を整理し、写真を撮り、来歴、価値を調べた。→　展示会開催

五十嵐邸ではたらき隊　掃除・障子の張り替え・かたづけ→イベントで開催

そのほかにも土・日の見学会開催・邸内ガイド・コンサートの開催など

五十嵐邸をたくさんの人に見てもらい、知ってもらった。

そして、修復工事始まる

●平成12年度～13年度・・・耐震補強をメインにした修復工事を実施

工事中も

⇩

工事の内容についての会員勉強会の実施

会員がガイドする工事見学会の実施

子どもたちと壁土をこねて竹小舞に塗る「壁土こね大会」と

町民の投票による外壁の色決めと「ペンキ塗り大会」の実施

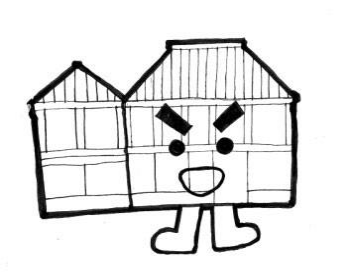
本格的な活用始まる…静岡市との合併・・・そしてNPO法人に

平成１３年８月　修復工事完成

蒲原町NPO審議会のプロポーザルコンペによる審査を経て

平成１４年１１月　蒲原町と委託契約を結び、本格的な活用が始まる。

・歴史的建造物の価値を活かした利用
・留守番ではない管理
・町内外の人に開かれた運営
・子供たちが親しみの持てる運営



平成１５年～　春と秋のコンサート・昔のくらし体験事業（お泊り会、大掃除と餅つき）・すてき講座・おもしろコレクション展などの企画展示・NPO団体活動発表会・各種貸館展示など、いろいろなイベントを実施して、五十嵐邸と会の認知度アップにつとめた。

平成１８年３月　静岡市と合併

平成１８年８月　NPO法人の法人格取得

現在の活動

7つの事業をメインに活動中！

1. **ガイド事業**・・・邸内のガイド
2. **施設の管理運営事業**・・・週５日の開館
3. **保存・継承事業**…ニュースレターの発行・まちなみ講演会の実施
4. **伝統文化体験事業**・・・昔のくらし体験事業・旧暦であそぶ
5. **講演会・音楽会開催事業**…春秋のコンサート・各種講演会の実施
6. **登録有形文化財活用ネットワーク事業**・・・全国の登録有形文化財活用ライブラリーの設立・活用のノウハウを学ぶ研修会・専門家等による「活用お助け隊」の結成・まちなみゼミの開催、参加
7. **その他事業**・・・喫茶サロン事業・五十嵐邸友の会事業など

これからの活動・・・東日本大震災をふまえて

平成23年3月11日の東日本大震災

東海地震に備えて、蒲原宿の町並みや歴史的建造物を
守るために、いまできることはないだろうか？

平成２４年度

文化庁の「NPO等による文化財建造物の管理活用事業」の
文化財建造物防災に関する活動分野に応募し、採択

「東海大地震に備えて旧蒲原宿の文化財建造物を地域で守る事業」を実施

東海大地震に備えて旧蒲原宿の文化財建造物を地域で守る事業

目　的

文化財建造物の被災の状況や海洋型地震の規模等の見直しなどを踏まえ、文化財建造物と地域を守る活動に取り組む。

事業の内容

１．災害発生時に文化財建造物を守る防災活動方策の検討

①旧五十嵐歯科医院の被災時の行動計画の検討
②防災拠点として旧五十嵐歯科医院を機能させる活用や整備方策の検討
③歴史的町並みの特性を活かした災害時対応シミュレーションの検討

２．地震や津波時の破損による文化財建造物の解体進行を防ぐ方策検討

①建築士等による被災後の行動マニュアルの検討
②旧五十嵐邸を考える会等による被災前、被災後の行動計画の検討

３．津波被害等を受けた場合の文化財建造物や歴史的町並みの事前復興計画の検討

４．しずおか町並みゼミ等を活用したデータベースとネットワークの構築

一定の成果が得られたこと

旧五十嵐邸を地域防災の核とする取組みが進んだ

①旧五十嵐邸で災害が起きた時の行動計画をたてた

避難誘導のルート確認・市の消防計画の検証→提言へ

②旧五十嵐邸を災害から守る設備の検証を行った

初期消火に役立つ消火バケツ、ホースなどの設置

③周辺地区の防災にも寄与できる取り組み内容を整理

地域の防災資源（消火栓・消火器・空き地・樹木・湧水・路地・通り土間・井戸・かまどなど）をまちあるきで探し、地域ごとの防災資源マップを地域の人たちと作成

これからの取組み

●歴史的町並みの「事前復興」に向けた課題の把握

①建築士と協力して検討する事柄を把握した

・被害判定、応急修理の相談窓口つくり、職人などの斡旋　など

⇩

静岡県ヘリテージセンター（ＳＨＥＣ）との連携

②災害時に向けて会員が日頃から準備する事柄の把握

・所有者に日頃から建物の価値や感謝の気持ちを伝える　など

⇩

蒲原宿まちなみの会との連携

蒲原宿内の歴史的建造物の居住者を中心にまちなみ・まちづくりをすすめる団体

●蒲原宿の歴史文化を活かした地域防災の取組みに着手

①身の回りにある歴史文化を活かした防災資源マップの作成

蒲原宿内を対象に地域の防災資源（消火栓・消火器・空き地・樹木・湧水・路地・通り土間・井戸・かまどなど）をまちあるきで探し、地域ごとの防災資源マップを地域の人たちと作成

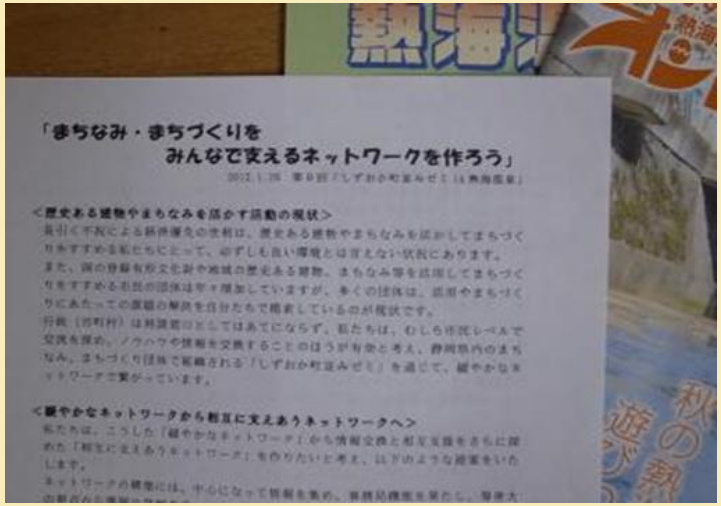
②地域の防災訓練に参加し、より効果を高める方法を考えた

五十嵐邸を防災拠点とした防災訓練を実施
かまどを使った炊き出し訓練
池の水を使った消火活動
医師による市民トリアージ講習会の開催

●しずおか町並みゼミ等を活用したデータベースとネットワークの構築

静岡県内でまちなみ・まちづくりを
すすめる３８団体により年１回開催

●リストづくりと情報・資料を集める。
●手に取れるし、パソコンでも見られる「まちなみ・まちづくりライブラリー」をつくる。
●相談やお知らせを載せる掲示版をつくる
●専門家による活用「お助け隊」をつくる。
●町並みゼミを続ける。



**まちなみ・まちづくりを
みんなで支えるゆるやかな
ネットワークづくりを呼びかけた。**

ネットワークを活かして・・・いろいろな事業を展開

●行政の枠組みを超えて「富士の山ビエンナーレ」を市民の力で開催

①五十嵐邸を会場に現代アート作品を展示

②地域のまちづくりネットワークによるイベントの実施

・着物愛好家グループと「着物姿でまちを歩こう」＋茶道グループによる「お茶会」の開催
・蒲原宿まちなみの会と「灯りアートと宵まちギャラリー」開催
・中尾羽自然公園づくりの会と「里山でアートを楽しもう！」開催
・蒲原ふるさとガイドのみなさんと「ふるさとウォーク」開催
・自治会・消防団・子ども会のみなさんと「蒲原宿内行灯行列」＋「映画会」

●「富士の山ビエンナーレ」のネットワークを活かして「子どもアーティスト育成講座」を開催

●そして･･･活動を続けてこられたのは･･･

①みんなのやる気
②ゆるやかなつながりとなごやかな雰囲気
③専門家のみなさんの協力
④地域のみなさんのあたたかい見守り
⑤心強い五十嵐邸ファン、蒲原ファンの存在

●そして･･これからの課題

①会員の高齢化･･･平均年齢60歳以上、最高齢は83歳！
②財源の確保･･･市からの委託料だけでは不安
③行政とのかかわり･･･市所有の弊害

これからもがんばるぞ！！